

いもう 葦毛通信



ハルリンドウ

平成 28 年 4 月 18 日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町 3 丁目 1
TEL : 0532-56-6060

No. 36

1、平成 27 年度作業報告 - 6

Q 地点

Q 地点は旧水田部分の南側の間伐を行いました。L 地点よりも間伐の密度は低く、やや暗い森の状態です。伐採した木は、太いもので直径 31 cm のスギで年輪は 50 年でした。伐採木の多くは直径 10 cm 以下の小径木で、伐採本数は 149 本でした。

地表面には落ち葉が厚く堆積しているようですが、今回の作業では時間が足りず十分に



Q 地点作業後：北から（3 月 29 日）



Q 地点作業後・南から（3 月 29 日）

除去することができませんでした。Q 地点は旧水田ですが、区画の畔が壊れたり、土が堆積して地形が変形している部分が見られます。低くなって水が溜まっている部分も見られるので、一部で水田を復元して一年中水がある浅い池の状態を復元する等、多様な環境を復元することができるようにしたいと思います。葦毛湿原では、かつては浅い池状のところがいくつも見られたようですが、現在ではほとんど見られなくなっています。



ホウチャクソウ（4 月 2 日）



ミカワバイケイソウ（左）とミヤマシキミ（右）

明るくなった影響なのか、木を伐採した一面からホウチャクソウが集中して発芽しました。ミカワバイケイソウは花芽を伸ばしていますが、花芽の数は少なく、今年の開花は当たり年ではないようです。ハンカイソウも水の流れに沿って数を増やしてきました。

T・U地点（二の沢）

二の沢は、葦毛湿原の中心から南を見た斜面にあります。三の沢と同様に、国有林内の崖から湧水し、下流に向かって直線的な沢を形成してします。三の沢よりも急な斜面で湿地としても細長い形状をしています。

右の写真は、1967年5月に星野清治さんが撮影したところとほぼ同じ位置から撮影したもので、今回の作業前と作業後の写真です。

上の写真は作業前で、T字の木道の奥は大きな島状部だったところですが、さらに奥の白く見えるのは礫が露出しているところですが、ここは作業前にはすべて森だったところでした。二の沢はさらに奥の森の中に埋もれていました。

中の写真は作業後で、国有林との境まで、二の沢の下半分ほどの部分の木を伐りました。まだ作業は途中で、二の沢の上流部に向かってさらに木を伐る必要があります。

下の写真は、約50年前に星野清治さんが撮影した写真です。奥に尖った山の頂上が、手前に平坦な山の頂上が見えます。上と中の写真は平坦な山に木が茂り、大きくなって後ろの山が見えなくなっている状態です。木はほとんどなく、剥げ山に近い状態で、尖った山の頂上部には横方向に縞模様が見えますが、植林の準備のために草を刈って横方向に並べた状態です。手前の山の中央で斜面下の木が見え

二の沢(湿原中央から南を見たところ)



T・U地点・二の沢作業前（2015年11月12日）



T・U地点・二の沢作業後（2016年3月29日）



49年前の二の沢（1967年5月：星野清治氏撮影）

る奥に、上流部から草が剥げているように見える部分がありますが、この部分が二の沢の源流部と考えられます。右端にも草が無く剥げた部分がありますが、ここが一の沢の源流部と考えられます。二の沢では515本の木を伐りました。

葦毛湿原に流れ込む一の沢から三の沢は、いずれも山のやや低いところを源流としている沢です。山裾が崩れて小さな沢になり、沢沿いが湿地になっていました。

平成27年度の作業では、総数1,802本の木を伐りました。今年は伐採した木の量が多く、幹や太い枝は現地に残しています。残した木にはカミキリムシ等の昆虫が来るので、豊橋市自然史博物館の学芸員がモニタリングをする予定です。

2、測量作業

葦毛湿原では、豊橋湿原保護の会の会員により、湿地全体に10m間隔で碁盤目状にピンを打って、全体を平板測量しています。また、木道にも番号を付けたプラスチック製の名版を付けています。経過観察の記録を取る時の基準にするためです。



豊橋湿原保護の会による平板測量

3、ハルリンドウが増えました！

ハルリンドウは、昨年(2015)の4月18日には**1,999輪**の花が咲き、その前年よりも増えたと感じていましたが、今年(2016)の4月11日には、**6,476輪**の花を咲かせ、昨年の3倍以上になりました。これまでの最高記録は**4,500輪**程と言われていましたので、今年は明らかに増えました。植生回復作業が進み、湿原全体がかなり明るくなったので、その影響だと思われま
す。湿原中央のM・K・N地点で顕著に増え、ネザサ群落の中にも見られます。植生回復作業でネザサを刈ったところで顕著に増えたようです。ハルリンドウの開花には、日照の確保が必要なようです。



M地点南西部のハルリンドウ (M地点だけで、232輪が咲きました)

4、葦毛湿原植生回復地区割図

葦毛湿原では指定地内を、作業前の森と湿地の境の林縁線、木道、沢、尾根等、地形や作業範囲を基準に、A～Z地点までに地区割をしています。葦毛通信 No. 29 の図が見にくかったので、改めて掲載します。旧林縁線は作業前の状態で、湿地としてかろうじて残っていたのは、林縁線の内部です。現在は植生回復作業が進み、林縁線は南側を中心に大きく後退しています。

